

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とスタッフルームに理念が掲示してある。職員は常に目に見えるところに掲示してある事で意識し、理念を念頭に実践している。	理念は設立当初から変わらず引き継がれている。自分らしく心やすらぐ居場所を大切に、利用者のみならず、地域の方、職員ともども穏やかに、安心感を持ってもらい、気軽に足を運んでもらえるような事業所の雰囲気づくりを心がけている。理念は職員が常に目に見える所に掲示しており、職員に浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新興住宅地に位置しており、常に地域の方々との交流を意識して関わっている。地域の祭りや行事に積極的に参加したり、地域のお祭り際には子供神輿の休憩所として開放している。避難訓練に協力を頂いたり、地域の防災訓練に要援護者として参加している。	地域との関係が強く、季節ごとの地域の行事には積極的に参加し、日常的に交流を深めている。避難訓練にも協力してもらっており、事業所の警報ブザーが鳴ると近隣の方も駆けつけてくるなど、日ごろからの深い繋がりが感じ取れる。地域の方からは、訓練に対して助言をいただくこともある。施設長は地域の下水道掃除にも積極的に参加し、地域との絆を深めようとしている。何時でも気軽に寄ってもらえる「心やすらぐ居場所」としての事業所がそこにある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月広報誌を発行し、認知症についての豆知識を掲載している。地域の行事にこちらから出向いて行く事や地域の方々を招く事で理解が深まるように取り組んでいる。 例：ひな祭りの時に地域の女性の方々を招いてお茶会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催しており、実施状況をオープンにして委員の方々よりご意見や助言を頂いている。スタッフ会議にて頂いた意見等の情報を共有し向上に繋げている。	運営推進会議の参加者は、利用者、家族、包括支援センター、町内会長、民生委員が参加し、事業所の実施状況、ケアサービスの実践状況等報告をしている。事故報告では包括支援センターの方よりアドバイスを受取り、行事報告では民生委員、町内会長より意見をもらい積極的な意見交換が行われ、サービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は運営推進会議への出席はないが、開催した資料や議事録を都度速やかに上越市へ届けている。	今年度は運営推進会議への参加はないが、隔月に行った運営推進会議の資料や議事録を上越市へ届けている。また、事業所内で事故等があった時は、事故内容によって上越市への届け出を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同グループ内の権利擁護委員会に職員一人が参加し、スタッフ会議にて情報共有している。正しい理解の他に自身の言葉がけで拘束や不適切なケアに繋がらないよう心掛けている。玄関の施錠は日中は行っていない。	法人内のグループに属し、月1回権利擁護委員会に参加し、情報の共有を行っている。言葉での拘束はしていないか、例えば「ちょっと待ってください」「どこ行くの？」という言葉かけに対して、指示的な命令口調、不適切なケアとなっていないかなど、「自己評価」を行っている。また、同グループ内の身体拘束適正化委員会も3ヶ月に1回行っており、センサーを考える研修には全職員が参加している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループ内にて身体拘束適正化委員会が定期的で開催されており、スタッフ会議にて情報共有している。30年度には権利擁護の立場からセンサーを考える研修会に全職員が参加している。	法人内グループの権利擁護委員会で、高齢者虐待防止研修会に参加し、参加した職員からスタッフ会議でフィードバックを行っている。また、同法人内での地域密着型の事業所で交換研修を行っており、色々な職場を見る事で、自事業所の良い所等、気づきの大切さを全職員で共有し振り返りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方は居られないが制度については職員は理解している。より知識が理解できるよう地域密着型事業所として取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設へ入所される際はご家族にとって不安も大きい為、安心して繋がるように契約の際には十分配慮している。ゆっくりと説明しながら疑問や不明な点がないか確認しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの更新時に、利用者ご家族よりご意見や要望をお聞きして活かすようにしている。また、日頃より利用者の方々から意見を聞き出すように努めている。運営推進会議に必ず、利用者代表やご家族代表より参加して頂き、運営に活かせるようご意見や意向を引き出すようにしている。	運営推進会議には利用者代表や家族代表の方が参加してもらい、意見が言いやすいような雰囲気作りにも努め、利用者や家族の思いを伺うことができています。運営推進会議の中では、包括支援センターの保健師からアドバイスをもらうこともあり、利用者、家族からの意見や要望は、外出や食事等のサービスに反映させている。また、利用者には日常的な会話やケアの中で要望を聞き、家族にはケアプラン更新時や面会の時に要望や意向を引き出すよう声掛けを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する事項については毎月のスタッフ会議にて職員の意見や提案を聞いており反映させている。	毎月のスタッフ会議は、全職員が出席しやすい時間帯に行っている。スタッフ会議では各委員会の報告、研修報告等を行っており、委員会の報告から環境について見直す事も行われた。また、外部評価のアンケートからもスタッフ会議で検討し、改善できるよう取り組みを行いサービス向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を取り入れており、半年に1回職員と面接を行い目標設定を行い向上心を持って働けるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課を取り入れており、半年に1回職員と面接を行い把握している。法人内では経験年数に応じたステップアップ研修が計画されており、全員が参加している。また、認知症についての理解や知識を深める為地域密着型事業所部会にて定期的に研修を行っている。今年度は10月・11月に開催予定。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内に地域密着型事業所が6事業所あり、管理者は月1回会議を通して交流している。また、今年度は職員研修の一環として交換研修を行い、お互い施設を訪問し良いサービスを取り入れる等向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前面接の際に、今までの生活歴をお聞きしたり、馴染みの物を施設に持ち込んで頂けるよう配慮し、スムーズに生活が送って頂けるようになっている。慣れない新しい環境の中で戸惑われたり、不安に思っておられる事を職員全員が理解し、少しでも早く不安が軽減するように傾聴し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にお話しさせて頂くと共に契約書締結の際に不安な点にも配慮し、丁寧に説明させて頂いている。ご家族の要望にも耳を傾け施設で出来る事とご家族にして頂きたい事を説明させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者と居室担当者が中心となり、ご本人の必要とされている支援について見極め、スタッフ会議等で情報共有しながら統一した関わりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症対応型共同生活介護の観点から、ご本人の出来る事はして頂き、また出来る事が継続できるよう関わりながら、必要とする支援はご本人を尊重した関わりが出来るようにしている。共に生活をしている関係を築いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の暮らしぶりを毎月の広報誌や隔月に居室担当者より写真を添えてご家族へお伝えしている。私たち職員とご家族が協働して支えていく関係づくりを大切にしている。	事業所のお知らせや利用者の様子が分かるように、毎月「宝寿の家便り」を作成し家族へ送付している。また、2ヶ月に1回、居室担当者が利用者の写真付きで、現在の様子とともに家族へお知らせしている。また、協力病院以外の受診時には家族の協力を得ながら行い、家族との外出や家族との時間を大切にできるよう職員は日頃より心掛けている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親族の方々との面会はいつでも来て頂けるように面会時に気持ち良く過ごして頂けるよう配慮している。また、年に1回ではあるが、馴染みのお店へ食事に行ったり、昔働いておられたお店に出掛けたりと関係が続くよう支援に努めている。	年1回の個別外出にて、利用者の希望を聞きながら、担当職員が1日フリーの時間を作り、利用者の行きつけのラーメン屋や昔働いていた食堂へ行くなど、馴染みの人や家族の協力を得ながら行っている。訪問理美容は行っておらず、昔から行きつけの美容室や近く美容室へ出かけており、地域社会との関係性を大切に継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、話題を提供したり、感情がぶつかり合う時には仲介に入る等利用者同士が良い関係で過ごせるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後、ご家族よりご相談等あった場合は相談に応じたり、必要な支援を行っている。積極的な支援は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おひとりお一人の思いや意向を把握するように計画作成担当者や居室担当者を中心アセスメントはセンター方式にて行い努めている。意向に沿えない場合でもご本人の気持ちに寄り添い検討している。	日々の関わり、会話の中から、一人ひとりの意向を把握するよう努めている。失語症の方には、ホワイトボードを利用したり、表情やしぐさ等で読み取りコミュニケーションを行っている。職員間でも、日常的に意見を交わせる雰囲気があり、スタッフ会議でも、利用者がどう思っているかなどを、利用者の気持ちを大切にして職員間で話し合いが行われている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前面接の際に、今までの生活歴や馴染みのものをお聞きし、今までの暮らしが「継続出来るように努めている。グループホームへ入所されるまでの経緯も把握するように努めている。	事前面接にて、身体状況、生活環境、入所に至るまでの経緯等を「私のくらし方シート」に記入し情報の把握に努めている。食事の習慣や馴染みの物、好きな事等を大切に、事業所でも継続できるよう努めている。事業所へ来てから分かったことや状態変化時にはその都度追記して、スタッフ間での情報を共有することに努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	システムにて情報共有すると共に日々の変化についても職員間の申し送りで情報共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と居室担当者が中心となり、センター方式のアセスメントにて課題抽出している。また、毎月のスタッフ会議の中でもご本人が暮らしやすい支援方法について全職員で話し合い、介護計画の作成に活かしている。	計画作成にあたり、本人、家族の意向、思いを大切に作成している。モニタリングは居室担当者が毎月実施し、3ヶ月に1回計画作成担当者が総括している。スタッフ会議では、日々の関わりの中で、利用者の状態変化やスタッフの気づき等を話し合い、アセスメントに追記し、介護計画作成時に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	システムにて記録し、情報共有している。ケアの実践やケアプランについて記録しており日々の暮らしの中で僅かな変化を見逃さないようにし、記録に残している。記録の中で変化について拾い上げながら、より暮らしやすく生活出来るように介護計画に活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	限られた職員であるため、ご家族の支援や地域の方々との交流、中学生の職場体験活動の受け入れ、毎週のボランティアの方の受け入れ等により多角的な支援につながるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週1回ボランティアの方を受け入れており、話し相手や掃除等手伝っていただいている。その他、不定期に踊りや歌のボランティアの方が来て下さったり、老人会の方々20名以上で草取りに来て下さっている。町内秋祭りに合わせて子供神輿の休憩所として開放し、交流も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を確認し、協力病院にて受診に繋げている。協力病院とは看護師や相談員を含め連携がスムーズにできており、適切な医療に繋げている。	協力病院との連携は日頃から図られており、状態変化時には協力病院の看護師に相談するなど、早めに対応に努めている。入所前のかかりつけ医(内科・整形外科・歯科)には家族の協力の下、受診を続けることができ、受診の際には日頃の様子を情報用紙に記入し、家族からかかりつけ医に情報提供がなされている。受診後も家族から受診結果の報告をもらうことで、情報共有に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師は常駐していないが、同じグループ内の特養看護師に適宜相談したり、適切な指示を頂けるよう連携が取れている。また、協力病院の看護師との連携もスムーズであり、適宜相談したり指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	8月に入院された方がおられたが、病院担当看護師と情報交換を行い必要時にはこちらから出向きスムーズに連携が取れていた。当初は施設に戻る事は困難との話も出ていたが、こまめに連携を取りながら施設の希望も伝えながら早期に退院に繋げる事が出来た。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人の代表者の方針により、当施設は看取りを行っていない。その為重度化や終末期を迎えた場合について契約時にご家族へ十分時間をとって説明させて頂いている。また、当施設の利用が困難となった場合には協力病院を含め施設等へもスムーズに移行できるよう支援している。	重度化した場合の対応は、契約時に家族に分かりやすく説明がなされ理解を得ている。また、状態変化時や要介護認定の変更の際にも、その都度家族との話し合いを十分に行っている。協力病院と母体施設の関係者と連携を行い、スムーズに住み替えができるよう支援を行っている。急な状態変化があった場合でも、利用者、家族の意向に合わせて協力病院と連携を行い、不安なく生活ができるよう適切な支援を行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、応急処置の講習会へ全職員が参加し、知識や技術の習得に努めている。ノロウイルスを含めた感染症の対応にもグループ内の感染症委員会へ職員が参加し、情報共有するとともにシュミレーションをして備えている。	法人グループ内で毎年消防署の方が来られ、心肺蘇生、異物除去等の勉強会を行っている。確認の意味も込めて、事業所の職員は全員が出席し技術習得の継続に努めている。グループ内の感染症委員会に所属する職員より、感染症の時期になるとシュミレーションを交えた勉強会を事業所内で行い、新しい情報はマニュアルにも追記している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、3回夜間想定にて避難訓練を行っている。1回は地域の方々にも協力を頂き訓練を行っている。施設で非常時が生じた時には防災ブザーが2か所に設置されており、協力体制が出来ている。地域の防災訓練にも要援護者として利用者が参加している。	避難訓練は定期的に行っており、事業所からの防災ブザーが鳴ると地域の方が駆けつけてくるなど協力体制ができている。地域の避難訓練にも参加し、町内会館が2階建てで、避難する際に階段の上り下りが難しく、町内会長が市に話を通してくれた事例もある。今年には台風被害で事業所近くの川の水位が上がり、避難警報が出た時は法人母体施設の災害担当と連携し、夜間母体施設に避難した実績がある。事業所には備蓄品も常備されており、有事の際の対応は職員が周知している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護の観点から常に意識するよう関わっている。不適切なケアについての勉強会も行っており、認知症があってもその方一人の人格と意識して関わるようにしている。	日々の支援の中で、事前情報やアセスメントから一人ひとりの生活スタイルに合わせて関わっている。職員は個々に不適切ケアはなかったか、言葉かけは指示的になっていなかったか等、日々の支援を振り返り自己チェックを行っている。人事考課を取り入れ、半年に1回施設長と面談し、キャリアアップに繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で着たい服を選んだり、食べたいものを選ぶ等自己決定が出来るような場面を提供するように心がけて関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごして頂けるよう自分の部屋で過ごしたい時は過ごせるようにしたり、午睡されない方は居室ではなくリビングで過ごしたりと希望に沿うように関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院へお連れし好みの髪型や毛染め、パーマをかける等希望に沿うように支援している。また、起床時には「今日はどの服にしましょうか」と声掛けして好みの服を着て頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「何か食べたい物はありますか。」と季節に応じた選択ができるようにお聞きしている。特に誕生日にはお一人おひとりの希望に沿った献立を提供している。一緒に芋の皮むき等野菜の下ごしらえを一緒に行ったり、味見をしてもらい盛り付けを手伝ってもらっている。後片付けも役割を決めて手伝っている。	月1回法人の管理栄養士にメニューを提出し、栄養バランス等の確認を行っている。日々の中では近隣の方や家族からの差し入れ、事業所の畑で収穫された物を活かし調理している。誕生日月には、利用者一人ひとりの食べたい物を提供している。また、利用者の状態に合わせて、刻み食や嗜好等配慮しながら盛り付けも行われ、職員と一緒にできる事は行ってもらい、利用者の得意なことを引き出し関わっている。食後片づけは日々持ち回りで役割分担が決まっており、協力しながら手際よく片づけを行っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方にあった量や形状(お粥や刻み等)に配慮して提供している。水分摂取を好まない方にはトロミを付けた甘味を付れたりして確保するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。一人ひとりの状態に合わせて準備をし、声掛けをしている。必要な方には歯間ブラシも使用して頂いている。義歯の確認もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンやその方の習慣を把握して支援している。直ぐに紙パンツに移行するのではなく、失禁が心配な方にはパットを使用し様子を見ている。パットの大きさもその人の失禁量に合わせて大きさを調整している。	利用者一人ひとりの生活リズムに合わせて、排泄パターンを把握している。一人がトイレに行くとき連鎖反応で動き出すため、トイレ誘導はさりげなく、声掛けを行い、利用者のしぐさや行動パターンも職員は把握している。日々の排泄記録はパソコンに記録し、職員が共有に努めている。失禁の量に合わせて、パットの大きさ等を検討するなど利用者個々に合わせた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通に良い食材(ひじき等)を取り入れている。水分も小まめに摂って頂けるよう夜間のトイレ使用時にも提供している。体を動かす機会も提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴して頂いている。女性の利用者の方のみでお風呂を楽しみにされている方も多くおられる為、好きなタイミングでお誘いしてゆっくりと入って頂いている。	入浴は毎日行われており利用者の身体状況に合わせて浴槽の出入りなど、できないところを援助し、安全に入浴ができるよう支援している。また、季節に合わせて「ゆず湯」を楽しんだり、希望に応じて毛染めを行うなど、入浴がその方の生活の一部で、楽しみになるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	おひとりお一人の居室があるため、居室で過ごしたい方は居室で休みたい時に休んで頂いている。昼間に寝ていて夜に眠れない事がないように関わっている。時に夜間眠れない方には温かい飲み物等を提供して休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の配薬袋にどんな薬を飲まれているか記入し、把握している。内服薬が変更になった場合には書面にて皆で確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合った行事を計画し出掛ける機会を提供している。また、日々の中で買い物に出掛けたり、同グループのいなほカフェへ希望に沿って出かけており、気分転換となる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の中で近所の公園へ出掛けたり、食材の購入にスーパーへ出掛けたりしている。ご本人が昔住んでいた地域のお店へ好きな物を食べに出掛けたり、働いておられたお店へ出掛けた事もある。地域の行事には積極的に参加し、機会を提供している。	事業所は住宅団地にあり、近隣の公園は日々の散歩コースになっている。外出の年間行事計画を立て、季節に合わせた外出支援が行われている。また、その他に個別外出も行っており、意思表示が難しい方でも、居室担当が中心となり日常の会話や生活歴から行きたい所に外出している。外出支援は利用者の楽しみの一つであり、外出先では写真をたくさん撮り、廊下にも掲示している。日常の話題作りとなって、次はどこに行きたいか等、行きたい所、やりたい事を引き出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針により、預り金はなく全て立て替え払いとなっている。一緒に買い物に行った際に施設の財布から支払う機会は提供している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望される方にはおつなぎしている。年1回は絵手紙を指導してくださる方が来られ、年賀状を出したい方をお聞きして出す支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「便所」「お風呂場」「物置」「リビングルーム」「台所」と掲示し、わかりやすいように工夫している。季節の花を飾ったり、時には畑の作物を飾ったりして季節を感じて頂けるようにしている。	リビングの窓からはたくさんの日差しが入り、窓からは妙高山や季節ごとに移り行く山々を望むことができる。リビングの入口側に台所があり、食事の準備には利用者が手伝いやすいよう工夫されており、生活感と居心地の良さが感じられる。廊下には、花ロードに出展した作品が飾られていたり、行事や外出時の写真は利用者の笑顔が多く、家族が面会に来た時の話題作りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居室で心地よく過ごして頂けるよう居室に椅子を置いて寛いだり、時に気の合う方が訪れて会話したり出来るような環境にしている。ただ、椅子に上ってしまう方がおられ、撤去して居室もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に自宅で馴染みのものを持参くださるようにと案内しているが、ご家族によってバラつきがある。好きな本やお人形やぬいぐるみ等持参され、少しでも心地よく過ごして頂けるようにしている。	居室に大きな人形を持ち込んでいる方やラジオや好きな音楽を聴いている方もおられ、本人本位のリラックスできる居室環境が提供されている。また季節に合わせた衣類の整理など居室担当が関わり、毎日使用する茶碗や箸などは職員と一緒に好みの物を買いに仕掛けるなどの支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「便所」「お風呂場」「物置」「リビングルーム」「台所」と掲示し、わかりやすいように工夫している。電気スイッチ等も表示して分かりやすい工夫をしている。わかりやすい環境を提供することで自立した生活を送って頂けるようにしている。		